

第71回日本PTA全国研究大会

～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～ 広島から全国へ

期間：令和5年8月25-26日

場所：広島県広島市

参加者：阿部雄介会長、西村周会計、津川英俊校外長、足立英基広報長、青山まゆ委員

【全国大会に参加して】

今年度の全国大会は広島県で開催されました。1日目は8分科会から各自希望する分科会に参加し、2日目は全体会としてひとつの会場で行事や記念講演に参加しました。

《阿部会長》

様々な大会に参加させていただく中で毎回最大の学びとして持ち帰っているのは、講演や式典の内容や大会の設えなどではなく、同じ志の仲間たちと共有した時間や子どもたちや街の未来を熱く語った会話であります。

PTAを取り巻く環境は決して順風満帆とは言い難い現状ではありますが、そんな中でもリーダーとしての自覚を持って広島の地に訪れる各地の役員の方々から、それぞれの考え方や実行している活動内容を聞けるのは何にも代えがたい財産となっております。

広島の名物お好み焼きや牡蠣を食べながら皆様からいただいた沢山の思いを、どうこれからの各務原市PTA聯合会の未来に生かして行くかが私の使命であると感じ帰って参りました。

講演の内容として一番感心したと共に是非自分も真似したいと思った活動は、何校かのPTAが協力し子どもたちと保護者が一緒になってお城のお堀を綺麗にした活動でした。

ある1人のPTA会員が勇気を持って1歩を踏み出したその活動は、やがて行政や地元企業を巻き込み今では大きな大きなイベントとして市民から愛されています。

私も仲間とともに、子どもたちに郷土愛や奉仕の精神など様々な学びを与えつつ、街全体で子どもたちを育て見守って行く様な活動を各務原市にも根付かせたいと思います。

《津川》

今回全国大会に初めて参加をして講演も今後の役に立つ内容でしたが、その後の岐阜県の懇親会等で他市のPTAや、一緒に参加された阿部会長、青山さん、足立さんと普段の会議では話さない様々な話をできた事がとても有意義で印象的でした。

《青山》

ワークショップで他の参加者と交流する機会がありましたが、参加者のほぼ100%がPTA会長なこともあり、発言が前向きな方が多く、大変良い刺激を得ることができました。

参加講演① 分科会

基調講演：学校教育と地域の連携をどう進めていくか～子供の成長を地域と共に～

広島修道大学教授 山川肖美氏

実践発表：地域の中に学校を 学校の中に地域を

府中市コミュニティスクール連絡協議会会長 立石克昭氏

出席者：阿部、西村、津川

【内容】

地域に学びの場がある事、地域で学びの場を創る事の意義について考え、地域と共に歩む教育活動を効果的に進めるためにどうすればいいか考える。地域と学校の関わり方について、全国的にコミュニティスクールを展開し、連携を深める取組が盛んである。しかし、現状ではコミュニティスクールにおいて何をすればよいのか、誰がそれを継続していくのかなど課題が多い。

そこで、子どもたちにシビックプライド（地域への誇りと愛着）を持ってもらう学習方法が検討されている。

実際に学校で取り入れ、地域の担い手を育てるための活動を積極的に取り入れている事例の報告があり、「持続可能な地域運営」を目指し、学校教育の中で地域との関わり方を学んでいくことが大切であるとしている。具体的な例としては、子どもたちに地域のことを知ってもらうため、地域行事への参加、地域の地図（案内マップ）を作成するなどの取組を紹介している。

また、アンケート分析結果から、子どもたちは年を重ねていくと故郷へ戻りたい・故郷に恩返しをしたいという気持ちを持つこともわかっており、学校教育の地域を知る学習を通して、思い出となる行事や地域貢献の体験から次世代の担い手を生んでいく活動により安定した地域が保たれていくとしている。

「シビックエンゲージメント」という言葉を紹介し、「自分の暮らすコミュニティでの生活に変化をもたらすために働きかけること、そのために知識、技術、価値および動機を発達させること」を子どもたち自身が体験し、新たな地域を発掘していくことで地域が活性化していくことを提唱している。

【感想・会員の皆さんに伝えたいこと】

《津川》

- ・ 地域で子供たちの学びの場を設けるためには、保護者や地域の力が必要となる。その組織にあっては持続する事ができる構成が必要となる。
- ・ 児童生徒達は、地域に交わることで様々な経験をし、自己肯定感を高めることができる。
- ・ 学校運営協議会（コミュニティスクール）とは校長が考える学校運営の方向性を承認する場であり委員は意見を述べる場である。

《西村》

コミュニティスクールの在り方について、自身の見解では、機能しているとは言い難い状態にあると思っていた。形式上、整えている・報告しているといったコミュニティスクールが現状多いのではないか。

それは、学校の教員が日々学校の中の業務に追われる中、地域のことまで手が回らない実態があると思う。学校の中だけでもやることはたくさんあり、それに加えて地域との連携を考えていくことは負担が多すぎると考える。

年間行事を決めると同時に、教員も参加する地域教育を行う時間を作ればよいのではないかと考える。既にある社会教科の地域を知る教育ではなく、子どもも教員もこの地域を知るため、地域教育の専任講師を設置し、地域連携を深める授業を展開してもらえばよいのではないだろうか。

「学校と地域」・「教員と自治会」となどという枠にとらわれることなく、学校内に地域教育専任者を置き、子どもたちに今後自分が住んでいる地域をどうしたいかを提議し、課題を解決していく手段を構築するべきではないだろうか。

コミュニティスクールという形式ではなく、学校内部または教育のカリキュラム上で積極的に地域社会との関わり活動を取り入れていかなければ、本当の地域連携は進まないと感じている。

参加講演② 分科会

基調講演：世界で活躍する人材を育むために～これからの国際化に対応できる力とは～
独立行政法人国際協力機構 中国センター（JICA 中国）所長 村岡啓道氏

実践発表：AIC World college での学び

AIC World college 総校長 横田健司氏

AIC World college 大阪初等部校長 熊谷優一氏

出席者：青山

【内容】

- 途上国支援について
150/196 が途上国である。途上国は大切なビジネスパートナーでもあり、各国の発展が日本にとっても重要である。現在日本にある東名高速道路、東海道新幹線、黒部ダムなども、かつて海外からの支援を受け建設されたもの（1990年に返済終了）
- 必要な力：（自分・自国も含め）知る力、聞き理解する力、提案力、実行力
- インパクトのあるきっかけを持てば、関心のある子供たちは自発的に動き始める。必要なのはきっかけの場を与えること。
- 国際バカロレアとは：世界的な学習プログラム。もともとは親の転勤などでインターナショナルスクールに通う子どもたちに世界共通の大学入学資格を与える目的で開始された。
- 大切にしていること：子供たちに良質な問いを与える、違和感を大切にする、自分で問いを持つ、考えを周りにシェアする。
- 保護者の役割：勉強を教える必要はない。保護者は子供のファシリテーターであり、励ますことが役割である。
- 「Who gives the most negative influence on Nobita's life?のび太の人生に最も悪影響を与えるのは誰ですか？ しずかちゃん・ジャイアン・スネ夫・ドラえもん」

【感想・会員の皆さんに伝えたいこと】

最後のドラえもんの問題を、ぜひ一度考えてみてください。正解はありません。

そしてその考えを周りの人にシェアして、他の人の意見にも耳を傾けてください。こうすることで、自分が何を大切に思っているかが見えてくるそうです。

このように、たくさんの問いやインパクトのあるきっかけを子供に与えることで、子供自身が考えるようになり、説明をする・聞く体験を繰り返すことで素晴らしい成長に繋がるのだと学びました。これは子供だけでなく、私たち保護者も楽しんで成長できる手法だと感じました。

参加講演③ 分科会

基調講演：孤立と虐待のない街づくり～傷つく子どもを支えるためにできること～

ジャーナリスト 石川 結貴 氏

実践発表：子供のかげがえの命と尊厳を守る

広島チャイルドライン 上野和子 氏

参加者：足立

【内容】

- ・ ノルウェーでは町づくりで道路や公園を建設するときは、子供の意見を聞いて、計画に取り入れている。小さい時から、子供が社会に認められる環境がある。
- ・ 子供の時に認めてもらって、大事にしてもらった実感がないと、親になっても一方的に子供をしいたげる行動になりがちである。
- ・ 現代は、共働き世帯が増えて親に時間がないため、子供とのコミュニケーションが不足している傾向がある。
- ・ 性被害に関しては、最近は男の子の場合が増加している。男の子の場合は、特に被害あつてからの立ち直りが遅い傾向がある。加害者が身近な場合が多く、親戚のお兄さん、お母さんの彼氏などのケースが多い。家庭や親せきの中で起こるので親に話をしても信じてくれないことが多い。
- ・ 虐待や孤立の子供を保護する場合は、年間 1500 件の通報の中で 2%ほどである。実際は、通報が無いケースがあるのもっと起こっている。DV のほとんどのケースは親が子供をかわいがりすぎて、エスカレートする場合がある。教育虐待と呼ばれるものが代表的なケースで勉強を強制的にさせて、子供が思い通りの成績が出ないと、つい手が出てしまう。これがどんどんエスカレートして虐待となる。虐待をする親=悪い親ではなく、愛情が違う形で DV となってしまう。

【感想・会員に伝えたいこと】

虐待は、子供の時体験したことが、自分が親となった時に繰り返される傾向があるようです。重症化する前に親は子供の声に耳を傾け、話を聞き、認めることが大切と感じました。子どもの自己肯定感を大切にして子供の聞いてもらえる体験が癒しにもなるのだと感じました。基本的なことですが、親子の会話が非常に大切だということです。

参加講演④ 記念講演

心のトリセツ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～

株式会社感性リサーチ 黒川伊保子 氏

出席者：阿部、津川、足立、青山

【内容】

- ・ 人工知能が発達していく中で人間が育てていく力・必要な力とはなにか。
- ・ 昔の日本は、生産性が重要視されてとにかく実行力が必要であった。最近の傾向は想像力が必要である。AIに何の課題を与えるかが必要になる。そこには想像力が必要となる。
- ・ 脳が喜ぶことをすると数倍早く、脳は動く。まずは、遊ぶこと。これによって、それぞれの個性が出て発想力が育つ。この想像力がこれからの社会では必要とされる。
- ・ 脳のタイプは共感型と問題解決型の2パターンしかない。
共感型は、感情的になり過去の事を思い出して対応をする。
問題解決型、今できることをとっさに考える。行動派である。このタイプは昔、狩りで育ったタイプなので男性に多い。
→この2つのタイプはなかなか分かり合えない。
しかし、お互いを理解する事は出来る。
- ・ 問題提起をするのでは無く出来ていることから認めてあげる事が大切である。
- ・ 失敗を未然に防ぐと脳はセンスが良くなる。誰でも失敗はするものです。
- ・ 脳が活性化する失敗3ヶ条
 - ① 失敗を他人のせいにししない。
失敗を人のせいにする、脳が失敗と気づかない。
 - ② 過去の失敗をくよくよしない。
せっかく消した脳の回路が再び思い浮かべてしまう。
 - ③ 未来の失敗をぐずぐず言わない。
まだ起こってもいない失敗した未来は現実になるケースが多い。失敗を恐れている指導者は、人材が育たない。

【感想・会員の皆さんに伝えたいこと】

《津川》

人工知能が発達していく中で人間が育てるべき力・必要な力は発想力と対話力。またChatGPTなどを効果的に使うための質問力。

力を向上させていくために、有効な対話対策の為にとっさの問題が起こった時にできる思考回路2種類を教えてくださいました。思いを語る共感型と結論を急ぐ問題解決型。

それぞれが重要視するところが異なり、異なる二人がペアになる事で鉄壁のペアとなる。お互いが惹かれあう事が多く、夫婦がそのような形になっている事が多いとの事。ただし、うまくコミュニケーションが取れないことも多いため注意が必要。その為、今回の講演の中では対話の仕方、相手の見方についていくつか話がありました。それぞれ数種類の型に分けながらの説明の為、分かり易く今後の対話、質問に役立つ内容となっていました。

《足立》

良好な人間関係は、まず相手を認めることが大切だと感じました。欠点や、出来てないことを指摘するより、小さなことでも出来ていることに気づいて、話をする事が重要だと感じました。親子関係、夫婦関係、社会での人間関係でも共通だと思います。問題が起こった時は、反省をして気づきを起す。今できる事とゴールを意識して動き出す。これを心がけたいと思います。

《青山》

まず、講演者が「とことん人工知能が好きでたまらない！」ということが伝わる講演でした。多くの子供たちが、自分の好きなことを極めて、黒川氏のようにキラキラとした大人に育ってくれることを強く願いました。講演では、「脳が電気回路装置である」と想定し、いかに良い回路を組み立てていくかという観点ですべての人間関係を考察しているのが大変興味深く感じました。人間関係や子育ての場で、つい腹が立つような場面もありますが、「相手の回路を良い方向につなげるために必要な言動は」という一歩引いた視点から対峙するという技は、ぜひ多くの保護者に広めたいです。

以上